

<b>課題の4</b>	<b>秋植えタマネギの越冬率向上試験調査（継続）</b>
-------------	------------------------------

タマネギは国内において7月から8月下旬の期間に収穫できる産地が少ない。本県は、秋まき栽培、春まき栽培ともに7月から8月下旬の収穫が可能であり、端境期の出荷を狙える。

近年、市内においても、転作田を活用した高収益作物として、タマネギ栽培の取組が拡大しつつあるが、秋植えタマネギの越冬率の向上が課題となっていることから、中晩性種、中生種における越冬率を調査する。

## 1 調査内容

(1) 栽培環境 露地ほ場

(2) 供試品種 中晩生種：ネオアース（タキイ種苗） 播種時期：8月下旬（冷涼地）

中生種：ターボ（タキイ種苗） 播種時期：8月末（冷涼地）

(3) 調査方法

品種ごとに雪解け後の越冬率のほか、収量調査を実施

(4) 耕種概要

①播種日：1回目 8月31日、2回目 9月10日（200穴セルトレー使用）

②定植日：どちらも10月28日

③栽植様式：畝幅190cm（床幅90cm） 株間10cm 条間25cm 4条植え  
栽植株数 21,053本/10a

④施肥量

区分	肥料名（N-P-K%）	施肥量（成分量 kg/10a）		
		窒素 N	リン酸 P	加里 K
基肥	燐硝安加里 1号 S552（15-15-12）	8.1	8.1	6.5
	パワーリン（0-30-0）	0.0	3.8	0.0
	けい酸加里（0-0-20）	0.0	0.0	1.9
合計		8.1	11.9	8.4
追肥	燐硝安加里 S646 追肥専用（16-4-16）	2.5	0.6	2.5
	CDU たまご化成 S555（15-15-15）	2.4	2.4	2.4
合計		4.9	3.0	4.9

⑤追肥日：3月29日 植え穴施肥

⑥収穫日：6月22日（ネオアース、ターボ）

## 2 調査結果

(1) 生育状況

定期的な薬剤散布により、目立った病害虫の発生は見られなかった。（薬剤散布状況は表1参照）

表1 薬剤散布状況

散布月	殺菌剤（成分）	殺虫剤（成分）	対象病害虫
9月	2回（TPN, マンゼブ）	2回（シアルトリリ, BT）	べと病、ヨトウムシ等
10月	2回（トリフルシロニル, マンゼブ）	2回（アセチンピリト, シアルトリリ）	乾腐病、べと病、アザミウマ、ネキリムシ
11月	1回（TPN）		べと病
3月	1回（オキシトラサイクリン, ストルブマイシン硫酸塩）		軟腐病
4月	2回（TPN, マンゼブ）	1回（ダイン）	べと病、ハモグリバエ
5月	2回（シキサル, アソナリカルイリピル, マンゼブ）	1回（ピリダリル）	べと病、アザミウマ
6月	2回（TPN, マンゼブ, カミド）	2回（ピリダリル, シルピトラム）	べと病、アザミウマ、ハモグリバエ

(2) 調査結果

越冬数、収穫数を表2、10a当たりの換算収量を表3、越冬率、収穫率を図1に示した。

越冬率は、8月播種のターボが97.5%、ネオアースが97.0%、9月播種のターボが92.2%、ネオアースが91.9%となった。収穫率、秀品率は、9月播種よりも8月播種の方が高かった。1個当たりの調製重は、8月播種ではターボの方が重く、9月播種ではネオアースの方が重かった。10a当たりの換算収量は、8月播種のターボが最も良く、順に8月播種のネオアース、9月播種のネオアース、9月播種のターボとなった。

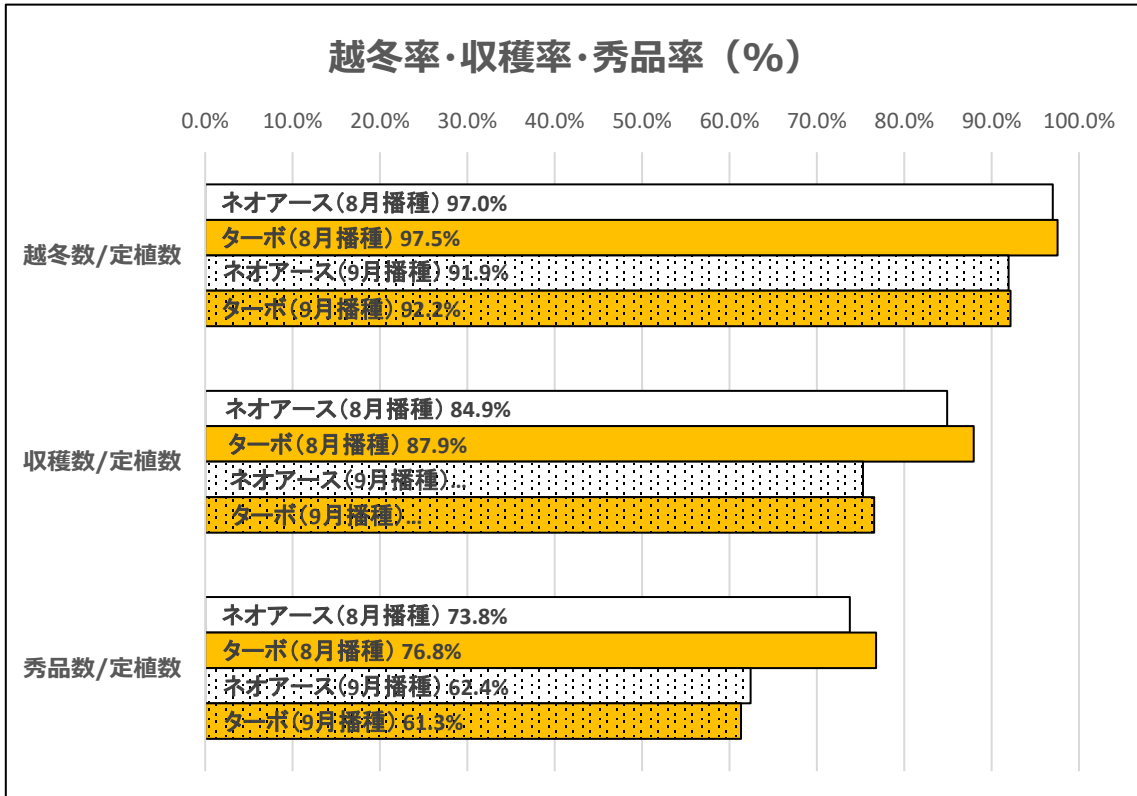
表2 越冬数、収穫数、秀品数

品種名	定植数 (個)	越冬数 (個)	越冬率 (%)	収穫数 (個)	収穫率 (%)	秀品数 (個)	秀品率 (%)
ネオアース(8月播種)	961	932	97.0	816	84.9	709	73.8
ターボ(8月播種)	1,020	995	97.5	897	87.9	783	76.8
ネオアース(9月播種)	1,080	993	91.9	813	75.3	674	62.4
ターボ(9月播種)	1,032	951	92.2	790	76.6	633	61.3

表3 10a当たり換算収量

品種	栽植株数 (株/10a)	秀品率 (%)	秀品個数 (個/10a)	調製重 (g/個)	収量 (kg/10a)
ネオアース(8月播種)	21,053	73.8	15,537	167.4	2,600.9
ターボ(8月播種)	21,053	76.8	16,169	175.1	2,831.2
ネオアース(9月播種)	21,053	62.4	13,137	169.9	2,232.0
ターボ(9月播種)	21,053	61.3	12,905	151.2	1,951.2

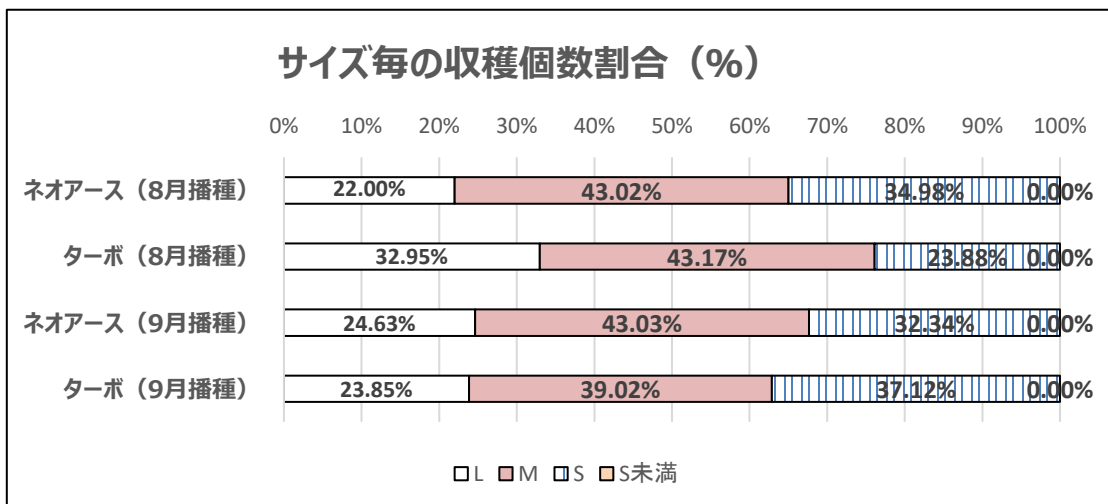
図1 越冬率・収穫率・秀品率



サイズ別の割合を図2に示した。

Mサイズ以上の割合は、8月播種のターボが最も多く、9月播種のターボが最も少なかった。ネオアースでは、8月と9月に大きな差は見られなかった。

図2 サイズ別の個数割合



〈参考 タマネギ出荷基準〉

区分	2L	L	M	S
直径	9cm 以上	7.5cm 以上	6.5cm 以上	5.5cm 以上

### 3 まとめ

昨年度までの調査で、品種による播種適期を守ることが越冬率の向上につながることを示されている。

今年度は、播種適期がともに8月下旬となっているネオアース（中晩生種）とターボ（中生種）を用い、適期に播種したものと適期から10日程度遅く播種したもので、それぞれの越冬率を調査したが、適期である8月に播種した方の越冬率が高く、収量も良い結果となった。

品種間の比較では、8月播種ではターボの方がネオアースよりも越冬率、収穫率が高く、収量も良い結果となったが、9月播種ではネオアースがターボの収量を上回ったことから、中生のターボの方が、中晩生のネオアースより生育が早い一方で、播種時期を遅らせた影響が顕著に収量減となって現れる結果となった。

品種により、越冬率や収量に差があるものの、播種適期を守ることが今回の結果からも示されたことから、今年度をもって本調査を終了する。

【参考】秋植エタマネギの越冬率向上試験調査

品種名	播種時期	早晩生	収穫期
ターボ	8月下旬	中生	6月上旬～6月中旬
ネオアース	8月下旬	中晩生	6月中旬～7月上旬
ケルたま	8月中旬～9月上旬	晩生	6月下旬～7月中旬

【R元年度】

ネオアースを8月中旬、ケルたまを8月中旬に播種した。

越冬率、秀品率、収量は、ケルたまの方が良かった。

調製重では、ネオアースの方が良かった。

品種	越冬率 (%)	秀品率 (%)	調製重 (g/個)	収量 (kg/10a)
ネオアース	69.2	67.1	205.5	1,792.6
ケルたま	81.6	78.7	198.7	2,161.1

【R2年度】

ネオアースを8月下旬、ケルたまを8月中旬に播種した。

越冬率、調製重は、ケルたまの方が良かった。

秀品率、収量では、ネオアースの方が良かった。

ネオアースは前年度よりも越冬率が高くなった。

品種	越冬率 (%)	秀品率 (%)	調製重 (g/個)	収量 (kg/10a)
ネオアース	77.2 (前年比+8.0)	73.7	217.5	2,619.1
ケルたま	88.1 (前年比+6.5)	72.8	224.9	2,414.8

【R3年度】

ネオアースを8月下旬と9月上旬、ターボを8月下旬と9月上旬に播種した。

全ての項目で8月播種の方が良かった。

8月播種では、全ての項目でターボの方が良かった。

9月播種では、ネオアースの方が調製重と収量が良くなった。

品種	越冬率 (株/10a)	収穫率 (%)	調製重 (g/個)	収量 (kg/10a)
ネオアース(8月播種)	97.0	73.8	167.4	2,600.9
ターボ(8月播種)	97.5	76.8	175.1	2,831.2
ネオアース(9月播種)	91.9	62.4	169.9	2,232.0
ターボ(9月播種)	92.2	61.3	151.2	1,951.2